

念花

2024年6月14日第5号

西南中生徒指導部通信

文責 松浦

神様は 細部に宿る

いよいよ菊池郡市中学校総合体育大会(いわゆる中体連大会)の一週間前となりました。クラブ活動においては、中学時代の集大成となる大会がすでに始まっている生徒もいることでしょう。

私は指導者としてこのような大きな大会を何度も経験させていただきました。その経験上、「大きな試合だから、大きな出来事で勝敗が決まるものではない。」ということを過去に痛いほど思い知らされました。

一進一退で競り合う厳しい試合ほど、派手なプレーで勝敗が決まることは少ないものです。逆に、「相手にあと一步寄せきれなかった。」「パスした後にはサポートの動きをしなかった。」「守備のカバーに一秒早く行けなかった。」「…そんな、大きな出来事の前に起こる「小さなこと」で勝敗は決まる」ことが多いのです。

だから、それを痛感して、勝ち続けるチームや個人は、そんな小事を大事にするのです。

小事を大事にするためには、まず小事に気づくことから始まります。強いチームや個人は、小さいことに気づく感性に優れています。だから、日頃の生活や練習から気づかせることに指導者やコーチはこだわります。

逆を言えば、小さいことに気づかない人、また、そんなことは大切だと思おうとしない人は、おそらく勝てないのです。

この、小さなことに気づく感性は、いつ身につけるのでしょうか。皆さんは、部活動やクラブの練習の何倍もの時間を学校の中(ク

ラスの中)で過ごしています。学校やクラスの中でできていないで、部活やクラブの大切な試合で急にできるなんて、そんな都合良く心や脳はできていません。やはり習慣になっっているものがいざというときの行動に表れるものなのです。

日頃、好き勝手に過ごして、小さい決まりを破ったり、他者の気持ちを考えてたりしない人は、自分以外の小さなことに心が向かなくなりません。

そんな癖(習慣)が、学校やクラスの中で染み付いた人は、試合で仲間が困っている場面でもそれに気づくことができず、サポートやカバーのための一歩が出ないものなのです。そして、何が原因か分からないまま、「相手が強かった」と矢印を自分ではなく、自分以外の外に向けて終わっていくのです。

「小さなことを疎かにする人は、必ず鈍感になります。」

「小さいことを適当にする人は、勝てないのはもちろん、全体的にのびません。」

「小さな約束を守れないような人は、大事な場面で自分の役割を果たさず、さぼりがちです。」

部活もクラブも、学校やクラスでの生活も同じです。

勝ち負けにこだわらぬより、そんな自分の生き方にこだわってみませんか。

スポーツに限らず、きつとあなたの人生の大事な場面で、期待に沿うそれなりの結果が表れることでしょう。

「勝負の神様は細部に宿るー」

そう信じて、練習を頑張るのも大事ですが、

それまでも一日一日の生活の中で、「いつでもどこでも誰にでも、たつたひとりでも先取り挨拶」、「8時正門通過」、「2分前着席・学習」、「自分も周りも美しくする身だしなみ・掃除」といった、凡事徹底する『あなたの姿』にこだわっていききたいものです。